

試験研究(事後)評価整理表

部 会 名 農業部会

主 務 課 農業振興課

No.	施策目標	研究課題名	試験研究機関名	試験研究期間		予算額 全体予算 (千円)	具体的評価項目				1次評価	部局コメント	最終評価	外部評価委員からの意見等
				始期	終期		当初の研究計画との相違	研究目的の達成度	研究成果の活用	研究実施時の問題点等				
1	農林水産業の生産力を強化するための、先端技術を活用した技術開発等の推進	先端技術を活用した新たな農業生産技術の開発	農業総合センター	R3	R7	85,552	A	A	A		A	本研究課題のICT やロボット技術等の先端技術を活用した成果は、担い手の著しい減少など地域課題の解決のために資するものである。	A	・担い手不足解消に向けた省力化・効率化として先端技術に大いに期待。先端技術導入による主要品目の所得向上につながる経営モデルの提示や、産地への実装支援(コスト・作業効率・収量等)を要望。 ・酪農経営の厳しい状況を踏まえ、搾乳ロボット導入等の参考技術については補助事業等の活用と合わせた周知が必要。 ・先端技術の現場への「普及性」が課題。高齢農家の操作抵抗や若手農家の導入コスト負担・申請書類の煩雑さを指摘し、モデル農家からの発信などを提案。
2	県産農林水産物の競争力を強化するための、「ふくしま」ならではの価値向上に資する品種開発等の推進	市場ニーズに対応したオリジナル品種・系統と生産技術等の開発	農業総合センター	R3	R7	412,856	A	A	A		A	農業者・農業団体・生産組織などの生産現場の要望と実需者などの市場ニーズを捉えたオリジナル品種や優良系統の育成により、研究目的に沿った成果が得られた	A	・成果は高く評価したうえで、生産体制構築と市場投入の更なるスピードアップを希望。また主要品目(高温耐性米、モモ等)で早生・中生・晩生の各作期におけるラインナップ整備を要望。 ・種雄牛の造成において、若齢時のゲノム情報による選抜だけでなく、牛の体型も確認して進めることを要望。 ・モモ(モモ福島18・19・20号等)の迅速な評価・登録や17号の再検討の必要性を感じる。シーズ先行ではなく現場ニーズの吸い上げと、スピード感ある系統選抜の実施を要望。
3	県産農林水産物の競争力を強化するための、「ふくしま」ならではの価値向上に資する品種開発等の推進	農産物を「ふくしま」ならではの産品にする技術の開発	農業総合センター	R3	R7	314,544	A	A	A		A	計画どおり研究が進められ、研究目的を達成できた。今後、研究成果の普及と活用が見込まれる	A	・種雄牛造成にあたっては、枝肉形質における歩留まり向上などの生産性向上の観点にも着目するとともに、牛肉の「おいしさ」における着目指標(味・香り・食感等)を明確にして欲しい。 ・技術開発自体は評価するが、開発をゴールとせず、技術や品種を広く周知・普及させて定着させることが重要。

試験研究(事後)評価整理表

部 会 名 農業部会

主 務 課 農業振興課

No.	施策目標	研究課題名	試験研究機関名	試験研究期間		予算額 全体予算 (千円)	具体的評価項目				1次評価	部局コメント	最終評価	外部評価委員からの意見等
				始期	終期		当初の研究計画との相違	研究目的の達成度	研究成果の活用	研究実施時の問題点等				
4	地球温暖化等の気候変動に対応し、環境と共生する農林水産業を進めるための技術開発等の推進	気象変動に対応した農業生産の安定化に寄与する技術の開発	農業総合センター	R3	R7	43,398	A	A	A		A	近年の温暖化に伴う夏季の高温や気候変動に対応した新たな技術開発を進め、計画通り期間内に水稲、野菜、花き、果樹における安定生産や品質向上につながる多くの研究成果を得ることができた。	A	・気象変動に対してデータ収集・改良を継続することが重要。特に果樹においては、現状の過酷な環境下でも安定して栽培できる品種・系統の開発・検討に重点を置くべき。
5	地球温暖化等の気候変動に対応し、環境と共生する農林水産業を進めるための技術開発等の推進	環境負荷を低減する農業生産に資する研究開発	農業総合センター	R3	R7	117,216	A	A	A		A	本県におけるみどりの食料システム戦略の推進に資する重要な課題であり、研究成果は、当初の目的を十分に達成した。	A	特段の意見なし
6	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進	産地や経営体において収益性を高める技術の研究開発	農業総合センター	R3	R7	105,038	A	A	A		A	地域農業の発展、産地の維持・拡大、経営体の経営改善・経営発展等につながる技術を開発し、現場が抱える技術的な問題を解決することができた。	A	・新規就農者や高齢の農業者にとって早期多収技術(ジョイント、根域制限等)は重要。 ・初期投資の課題に対し、成功・失敗事例の実績を継続的に発信・共有することを要望。
7	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進	農産物の安定供給に寄与する鳥獣被害防止・病虫害防除等に係る研究開発	農業総合センター	R3	R7	131,429	A	A	A		A	研究開発計画のとおり、有害鳥獣や病虫害の発生状況、農薬情勢等の変化を踏まえた防除対策技術等の開発を行い、現場課題の解決に資する成果が得られた	A	・鳥獣やカメシ等による被害増加への懸念と、病害・特定害虫に対する早期防除の成果を実感。生産者・JAとの緊密な連携のもと、病虫害に対する防除精度の維持・向上が重要。

試験研究(中間)評価整理表

部 会 名 林業部会
主 務 課 森林計画課

No.	施策目標	研究課題名	試験研究機関名	試験研究期間		予算額 全体予算 (千円)	具体的評価項目			1次評価	部局コメント	最終評価	外部評価委員からの意見等
				始期	終期		評価時 までの 進捗状 況	内外の 状況変 化	成果の 見通し				
1	活力と魅力ある農山漁村の創生	海岸防災林の保育・管理技術に関する研究	林業研究センター	R6	R10	1,400	B	B	B	B	計画のとおり試験研究が進捗し、高解像度衛星画像の解析結果は、踏査の補助資料としての利用が期待される。適切な保育管理への利活用も期待されるため、継続して試験研究を行うべきである。	B	・防災機能の持続的向上に向けた有意義な成果。今後は現地調査と合わせた生育不良要因の解明や、広葉樹混植による生物多様性・物質循環など多面的機能の効果検証への進展を期待。 ・衛星画像解析による生育状況の把握は作業省力化に有効であり、整備された海岸防災林の本数調整伐等の保育管理に効果的に活用できるよう、今後の成果に期待。 ・研究目的が「踏査補助手法の確立」であるのに対し、成果見通しに「踏査補助が期待される」とある点は、派生的効果の記載にあたらないのではないかな。
2	安全・安心な農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進	スギ大径材の強度特性等の把握と有効な活用方法の検討	林業研究センター	R5	R9	12,307	B	B	B	B	概ね計画どおりに進捗しており、大径材の利用拡大および製材品の高付加価値化に資する成果が期待されることから、継続して試験研究を実施することが適当である。	B	・内部割れ評価や乾燥法の検討は極めて重要。今後は非破壊検査データのばらつきの原因究明や乾燥時の内部割れ発生メカニズムの解明を深め、大径材の最適な乾燥・活用方法の提示に期待。 ・大径材の利用拡大や製材品の高付加価値化に資する成果が期待される。大断面製材品だけでなく板材の利用に関しても今後の研究成果に期待。 ・県木連が国庫補助事業の採択を受け、森林総研や県林業研究センターと連携して乾燥試験や強度試験に取り組んでいるため、引き続き協力をお願いしたい。

試験研究(事後)評価整理表

部 会 名 林業部会
主 務 課 森林計画課

No.	施策目標	研究課題名	試験研究機関名	試験研究期間		予算額 全体予算 (千円)	具体的評価項目				1次評価	部局コメント	最終評価	外部評価委員からの意見等
				始期	終期		当初の研究計画との相違	研究目的の達成度	研究成果の活用	研究実施時の問題点等				
1	県産農林水産物の競争力を強化するための、「ふくしま」ならではの価値向上に資する品種開発等の推進	ふくしまほんしめじ栽培技術の開発と優良品種選抜	林業研究センター	R3	R7	8,353	B	B	B		B	市場ニーズに合わせた子実体形質管理技術や低コスト化に向けた培地改良、増収が期待できる新品種の選抜など一定の成果があり、研究の当初の目的は概ね達成された。	B	・新品種登録や効率化・省力化を実現した有意義な成果。迅速な普及を求めるとともに、培地基材の検討や旨味成分の分析等、今後のさらなる研究成果に期待。 ・得られた研究成果の普及推進に努めるとともに、さらなる増収化および省力化技術の開発を期待。 ・研究成果の普及による栽培キノコの生産振興を期待。
2	安全・安心な農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進	広葉樹小中径材利用拡大方法の検討	林業研究センター	R5	R7	2,608	B	B	B		B	製造コストに課題は残るものの、安価な広葉樹小中径材を有効活用し、市販品と同等以上の製品性能を確保できたことから、研究目標は概ね達成された。	B	・歩留まりやコスト面の課題から、現時点での普及の見込みは低いものの、森林管理上、木材利活用の多様化は必須であるため、本成果を踏まえた新たな研究展開を期待。 ・集成フリー板が市販品と同等以上の性能が確認できたことは、シイタケ原木として利用できない阿武隈山系等の広葉樹有効活用に明るい成果であり、関係者への情報発信に努めてほしい。 ・林業振興課で取り組む広葉樹利活用促進事業と合わせ、当該研究で得た知見・課題等を共有し、広葉樹の利用拡大に繋げてほしい。

試験研究(事前)評価整理表

部 会 名 水産部会
主 務 課 水産課

No.	施策目標	研究課題名	試験研究機関名	試験研究期間		予算額 全体予算 (千円)	具体的評価項目				1次評価	部局コメント	最終評価	外部評価委員からの意見等
				始期	終期		研究 ニーズ の妥当 性	研究計 画の妥 当性	研究目 的の妥 当性	施策目 標との 関連性				
1	農林水産業の生産力を強化するための、先端技術を活用した技術開発等の推進	多様な漁業種類に応じた操業情報収集・配信システムの開発	水産海洋研究センター	R8	R10	80,814	A	A	A	A	A	漁業者及び業界の要望を踏まえた研究内容であり、資源管理の高度化及び県産水産物の高付加価値化により、水産業の振興が期待できる。	A	前事業で構築された操業支援システム等の成果を継続・発展させる研究であり、海洋環境が大きく変化する中、効率的な操業や資源管理の高度化に対する漁業者・業界のニーズは高い。ICTを活用した操業支援に加え、品質情報の発信による県産水産物の高付加価値化にもつながる取組として、着実な成果が期待できる。

試験研究(事後)評価整理表

部 会 名 水産部会

主 務 課 水産課

No.	施策目標	研究課題名	試験研究機関名	試験研究期間		予算額 全体予算 (千円)	具体的評価項目				1次評価	部局コメント	最終評価	外部評価委員からの意見等
				始期	終期		当初の研究計画との相違	研究目的の達成度	研究成果の活用	研究実施時の問題点等				
1	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進	シラス漁況予測技術の開発	水産海洋研究センター	R3	R7	528	B	B	A		B	機械学習など統計的手法を予測技術に取り入れ精度向上を図ることができた。分布調査結果の速報により、即応的な操業の支援が図られた。	B	シラスは本県沿岸漁業における重要な漁業対象種であり、漁業者からの漁況予測へのニーズは高い。本研究により、機械学習等を活用した漁況予測の有効性が示されるとともに、分布調査結果の迅速な情報提供が操業支援につながるなど、有用な成果が得られた。今後、予測精度のさらなる向上と現場での活用が期待される
2	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進	栽培漁業対象種の放流技術に関する研究	水産資源研究所	R3	R7	2,941	B	B	A		B	当初の研究計画から変更して実施した課題があるものの、種苗生産現場の課題である疾病防除対策及び生産コスト削減につながる知見は得られており、目的を概ね達成した。	B	栽培漁業対象種の安定的な種苗生産は、本県水産業の振興において重要な課題である。本研究により、ヒラメ親魚のウイルス検査や卵消毒による疾病防除対策の有効性が確認され、ホシガレイへの応用可能性も示されるとともに、生産コスト削減に向けた知見が得られた。種苗生産の安定化と効率化に資する成果として評価でき、今後の生産現場での活用が期待される。
3	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進	松川浦の増養殖の安定化に関する研究	水産資源研究所	R3	R7	540	B	B	A		B	松川浦増養殖の安定生産につながる成果や新たな課題が得られており、目的を概ね達成している。	B	松川浦では、アサリ資源の維持やヒトエグサの安定生産が重要な課題となっている。本研究により、ヒトエグサの生育と環境要因との関係や、アサリの資源状況、食害生物であるサキゴロタマツメタの駆除効果等について知見が得られた。松川浦における増養殖の安定化に資する成果として評価でき、今後の現場での活用が連携して期待される。

試験研究(事後)評価整理表

部 会 名 水産部会
主 務 課 水産課

No.	施策目標	研究課題名	試験研究機関名	試験研究期間		予算額 全体予算 (千円)	具体的評価項目				1次評価	部局コメント	最終評価	外部評価委員からの意見等
				始期	終期		当初の研究計画との相違	研究目的の達成度	研究成果の活用	研究実施時の問題点等				
4	県産農林水産物の競争力を強化するための、「ふくしま」ならではの価値向上に資する品種開発等の推進	高品質魚作出保存技術の開発	内水面水産試験場	R3	R7	9,850	B	B	B		B	当初の目的のうち、高品質魚の作出技術を確認したことから、目的を概ね達成したと評価する。	B	内水面養殖業では、高品質魚の作出や安定的な種苗生産技術の確立が求められている。本研究により、イワナの性転換魚や全雌種苗の作出、高成長群の継代選抜など、高品質魚の生産につながる技術が確立された。内水面養殖業の高付加価値化に資する成果として評価でき、今後の実用化が期待される。
5	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進	内水面重要水産資源の増殖技術の開発	内水面水産試験場	R3	R7	471	B	B	B	B	B	調査により造成産卵床の効果や天然種苗の資源量などを把握し、効果的な増殖手法開発につながる成果が得られたことから、目的を概ね達成したと判断される。	B	内水面漁協の経営環境が厳しい中、天然資源や漁場環境に配慮した効果的な増殖手法の確立は重要である。本研究により、アユの実用的な資源量推定手法やウグイ人工産卵床の増殖効果など、増殖事業の効率化につながる知見が得られた。内水面水産資源の持続的利用に資する成果として評価でき、今後の現場での活用が期待される。